

令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：33008

「学ぶ力」	
成果	課題
<p>◇札幌市共通指標「疑問や課題を解決するために、自分で方法を考えるようにしている。」が78.7%と、今年度も多くの生徒が学ぶことに興味や関心を持ち、課題を解決しようとする姿勢が引き続き見られる。</p> <p>◇札幌市共通指標「新しく学んだことを、他の学習や生活の場面で使おうとしている。」の肯定的な回答の割合が79.3%、「振り返ったことを、次に生かそうとしている。」が80.8%と、昨年度よりは値が下がったが、基礎的・基本的な知識及び技能を習得しようとする意識が高いと言えると考える。</p>	<p>◇札幌市共通指標「分からないことはそのままにせず、分かるまで努力するようにしている。」が74.6%、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。」が63.3%と、粘り強く取り組む場面を設定した授業を構築していく必要があると考える。また、「端末を使う活動で、友達の意見を進んで知ろうとしている。」が83.8%であるが、「端末を使う活動で、自分の意見を進んで伝えようとしている。」が72.7%とかなり低くなっている。この点から、相互承認の感度を磨くため、各教科等で、自分の考えを他者に伝えたり、他者との対話の場面を創出していくことが必要である。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
<p>◇札幌市の共通指標の「自分にはよいところがある。」が86.4%で、相互承認に関連する項目において、肯定的な回答が依然として増加傾向にある。一方、「自分が必要とされていると感じる。」が72.2%と、自分に自信がもてずに、自己肯定感が低い生徒が一定数いることも事実である。自己有用感が低くても、相互承認にも至らないと考える。教師の関わりの中で、生徒の良い部分や可能性を見つけるとともに、生徒同士が互いに認め合う風土を醸成することで、自己有用感を高め、ひいては相互承認の感度を高めていけるような働きかけをしていくことが必要と考える。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

研究主題 個別最適化を目指した公平な教育(協働的な学び)

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自主的な活動の充実 に向けて
	<p>(1)成長を妨げず、個性を伸ばす教育</p> <p>(2)個別最適化を意識した学びの実現</p> <p>(3)学びに向かう意欲を高める導入、終末部分の工夫</p>	<p>①より良い学級にするための学級活動の充実</p> <p>②生活や行事の成果を振り返り、委員会、係会の充実。</p> <p>③生徒会の活動を自らで計画し、実行し、振り返る。</p> <p>④生徒総会の実施（前期、後期）により、生徒の自主的な活動を充実させる。</p>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について		
<p>◇札幌市共通指標「端末のアプリケーションを使うことで、いろいろな表現をすることができるようになったと感じる。」が87.4%、「学習の中で端末を使うことは、勉強の役に立つと思う。」が92.8%と、肯定的な回答の割合が高く見られるので、今後も教科学習を中心に、持続可能なICTの活用場面を設定し、学習意欲の継続につなげていく。</p>		

<本プログラムの実行に向けて>

